



# 区民の戦争戦災 証言記録集



戦時迷彩を施した旧杉並区役所庁舎



# 区民の戦争戦災 証言記録集



昭和20年8月15日の終戦から、早くも70年の月日が流れました。

時の経過とともに、先の戦争を体験された方々が亡くなり、悲惨な戦争の記憶の風化が懸念される中、杉並区では、この節目の年に、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えていくための記録集を作成することができました。

平成5年に、区では、『平和を願って～区民の戦争・戦災体験集』を発行しましたが、現在、戦争を知る方の大半は80歳代から90歳代のご高齢となっております。今回の記録集の発行は、戦争の記憶を記録として残す大変貴重な機会となりました。

この記録集は、主に杉並区に関する戦争体験などを中心にまとめてみました。杉並区でも昭和20年5月25日には高円寺や和田、永福地域などで大きな空襲があり、数多くの尊い命が奪われており、人々の心に深い傷跡を残しています。戦中・戦後の体験者でなければわからない当時の状況が、言葉にはならないような重みを感じさせます。

我が国は、広島、長崎に原爆が投下され、世界で唯一の核被爆国として、核兵器の廃絶と恒久平和を世界各国へ訴え続けており、杉並区も昭和63年3月に「杉並区平和都市宣言」を行い、平和事業の充実に力を注いでおります。

最後に、この記録集の発行にあたり、戦争体験の原稿をお寄せいただいた皆様、取材や資料の提供などにご協力いただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます、発行にあたっての言葉といたします。

平成28年3月

田中良

<b>特別寄稿</b>	吉沢久子「杉並に七一年の住人」	4	
<b>第1章 戦争を知る</b>	太平洋戦争と杉並	7	
	太平洋戦争に関わる年表	8	
	杉並区空襲関連地図	12	
	杉並区空襲リスト	14	
	図解・戦前戦中の生活	16	
	戦争関連用語集	20	
	学童集団疎開先一覧	21	
<b>第2章 戦争の つめ跡</b>	現存する防空壕	23	
	高射砲陣地の跡地	23	
	特種情報部として接收された福祉施設・浴風園	24	
	コンクリートの釣鐘が今も残る中道寺	24	
	花立に使われている焼夷弾	25	
	日本で唯一の気象神社は軍事施設にあった	25	
	馬橋小学校の大穴落下事故	25	
	それでも生き続ける杉六小のかしの木	26	
	杉並の文化人と戦争(1)	27	
	<b>第3章 杉並の 空襲体験</b>	家族を失った空襲(久我山)／大熊高明さん	29
高井戸の空襲、庭先にも着弾(高井戸)／江藤雪子さん		30	
一消防官の回想(B29からマッカーサーまで)(高円寺など)／原田弘さん		32	
ガラスが融け落ちる焼夷弾の雨の下で…(高井戸)／岡崎幸子さん		34	
天沼で体験した3月4日の空襲(本天沼)／高橋貞子さん		36	
軍服で過ごした青春と、戦後荻窪の復興(荻窪)／岡和良さん		38	
<コラム> 忘れることのない空襲の記憶		39	
空襲と勤労動員(阿佐谷)／中井正幸さん		40	
<b>第4章 子どもと戦争</b>		陰膳で待った父の帰還(桃井第一小学校)／松原俊夫さん	42
		玉音放送を信じられなかった軍国少年(桃井第五小学校)／田村直幸さん	44
	堀之内国民学校を離れ、群馬県に縁故疎開(堀之内小学校)／蜂巢成昭さん	46	
	防空頭巾と過ごした別所温泉での集団疎開(若杉小学校)／北川恵津子さん	48	
	杉薬師の麓、宮城県での疎開生活(杉並第六小学校)／杉澤弘道さん	50	
	ひもじさ、寂しさとの闘い、学童疎開は子どもの戦争だった(桃井第四小学校)／小野寺昭さん	52	
	開墾、水汲み、山羊のカレーライス(高井戸第四小学校)／中村清さん	54	
	<コラム> 涙なしでは語れない集団疎開の記憶	55	
	集団疎開に先駆けて、富津学園へ(杉並第六小学校)／辰木義武さん	56	
	<コラム> 疎開先との戦後の交流	57	
杉並の文化人と戦争(2)	58		
<b>第5章 戦争と生活</b>	空襲と食糧難で、みんなクタクタでした(成田)／吉沢久子さん	60	
	緊張の中でも出会いを楽しんだ戦時下の青春(阿佐谷)／出澤粧子さん	62	
	東京競馬場厩舎前で聞いた玉音放送「後方支援」と「兵站(へいたん)」(西荻窪)／平岩寧さん	64	
	建物強制疎開からケヤキ並木へ(阿佐谷)／坂井益夫さん	66	
	空襲を受け生まれた絆(永福)／藤重トリさん	68	
	焼野原になった高円寺からの再出発(高円寺)／宮城良子さん	69	
	特産「高井戸節成キュウリ」の栽培も減り、さびしかった(高井戸)／内藤昇さん	70	
<b>第6章 中島飛行機 と地域</b>	中島飛行機の変遷と地域の発展	72	
	平和都市宣言と水爆禁止運動	76	
<b>第7章 戦後復興 平和の願い</b>	平和を願う心を育てる	78	
	戦争を伝え平和を願う学習	80	
	杉並の文化人と戦争(3)	82	

新聞の見出しは、燃えさ中に立ちつくし、おそ  
はげしく炎の燃えさ中に立ちつくし、おそ  
ろしさを越え、ぼんやりとしてしまひ、今夜  
私は死ぬからあを思つて犬を見つめていた  
ことを思い出します。そして、  
「女は銃後を守れ」といわれ、さか抜け、  
ここは今、戦場いやかいの  
と考へたこと、また、毛シバに白ハチマキ  
をして、近くの小学校の庭に集れといわれ、  
エイッ、エイッとかけ手をあげ、竹槍  
訓練をしたのは、何だかたのめか、と思つた  
り。  
そんな思い出を胸に刻んで生きた一年を過  
ぎ、自分を後へいれたアトも焼けつしま  
つ、杉葉の佐人とアト七一年の事、空襲の  
杉葉のくらしを記録しておいたことは、幸か  
アトと思つています。



吉沢 久子さん

大正7(1918)年、東京都生まれ。  
生活評論家、エッセイスト。長年、食文化や生活の知恵に  
ついてTV、ラジオ、出版、講演などで幅広く発信。  
近年は快適な老後生活への提案が共感を呼んでいる。  
昭和19(1944)年より現在まで成田東在住。

杉並に  
七一年の住人

吉沢 乙子

杉並区に住んで七一年がすぎました。  
私が杉並に住んでは、ちょうど東京空襲  
が休んだりと同時期でした。出征する人  
の留守宅をあずかることになり、若水まで住  
んでいた高田馬場のアパートをそのまゝにし  
て、急遽かまを引、越えおれぬ。  
まさか、その家の庭に湯を作ったり、毎晩  
の空襲警報に凍りつくような防空壕に出  
たり入りたりすることにしようとは、思いも  
しませんでした。  
最もおもしろかったのは、馬橋あたりまで  
焼けた、東京西部に大空襲のあったときでし  
た。近頃の高射砲陣地から針を上げ音、銃  
撃のヒュールヒュールという仲得の音  
が、おもしろい。あつた、一切の夜を庭で、